令和５年度 学校だより　　令和５年８月３０日

にしはら

８・９月号

渋谷区立西原小学校

数値ではかれない力

校長　曾我　泉

毎年、「しぶやおすすめの本５０」のコンクールに取り組む子供たちが大勢います。感想画・本の帯・POP と楽しい作品が集まってきます。これは、渋谷区子供読書活動推進計画に基づき、毎年行われています。どの場面を選ぶか、どんな文章にするか、考える必要があります。

読書が好きな、本の世界を楽しめる子は、思考力が伸びる傾向にあることが統計として表れています。読書の機会を増やすためには、本が身近にあることが必要と考え、西原小学校では、年に２回、読書月間を設け「なかよし読書」の取組をしています。また、学級文庫として、西原図書館から定期的に本を借りて教室においています。昨年度からは、電子書籍 Yomokka を導入しました。一人一台端末で読めることから、外に行けない休み時間にちょっと読書をするなど、これまでよりさらに、読書が身近になっています。Yomokka のアプリの仕掛けで、様々なジャンルの本に挑戦する姿も見られます。

Yomokka では、本はもちろん、朝日小学生新聞の一面も見ることができます。８月１７日の一面の話題は「非認知能力」についてでした。テストなどの数値ではかれる「認知能力」に対し、非認知能力は「数値ではかれない力」と示されています。それを「自分と向き合う力」「他者とつながる力」「自分を高める力」として、岡山大学の中山芳一さんは分類しているそうです。

これからの生活の中で、やるべきことを自分なりの方法でやり抜くために、非認知能力は必要な力と言えそうです。これまでも、学習を進めるうえで、自分自身の姿を客観的に見る力の必要性が言われてきました。そのことから、授業では、何が分かったかだけでなく、どうやって分かるようになったかや、友達や先生とどのように関わり解決に向かったかなどを振り返るようにしています。

渋谷区では、子供たちの振り返りを残していけるように、HACHI アプリが導入されることになりました。生活学習の振り返りに使います。

子供たちに、自ら学ぶ姿勢が身に付くように活用していく予定です。

行事の力

５・６年生は夏休み中に宿泊事業を行いました。家庭から離れ、子供たちだけで２泊３日を過ごす中で、教職員は、様々な機会をとらえ、子供たちが協働的に活動できるように指導していきます。子供たちは、普段とは違う環境の中で、お互いのよさを認め合いながら、よりよい生活をしていこうと努力していました。

今回の宿泊でも大小のさまざまな困難を自分たちなりに乗り越えることができたようです。

帰校式では、すがすがしい表情が見られました。

学校という場は、これから出会う多様な他者との協働に向けた、力を付ける場であることを、今後も大切にしていきます。

８・９月の目標

【生活目標】
きまりを守って協力して過ごそう

【保健目標】
生活リズムを整えよう

【給食・食生活】
体によい食べ方を知ろう